

3) メッシュ別人口【65歳以上人口割合】

- ・メッシュ別の65歳以上人口割合では、65歳以上人口が多いメッシュが見られた千葉ニュータウン中央駅周辺において割合が低くなっています。
- ・一方、印旛地域のうち鉄道駅から離れた集落地域の65歳以上人口割合は高くなっています。このような地域は、65歳以上人口そのものは比較的少ないものの、若い世代の人口も少なく、同居の家族など、送迎の担い手となり得る人口が少ない状況がわかります。

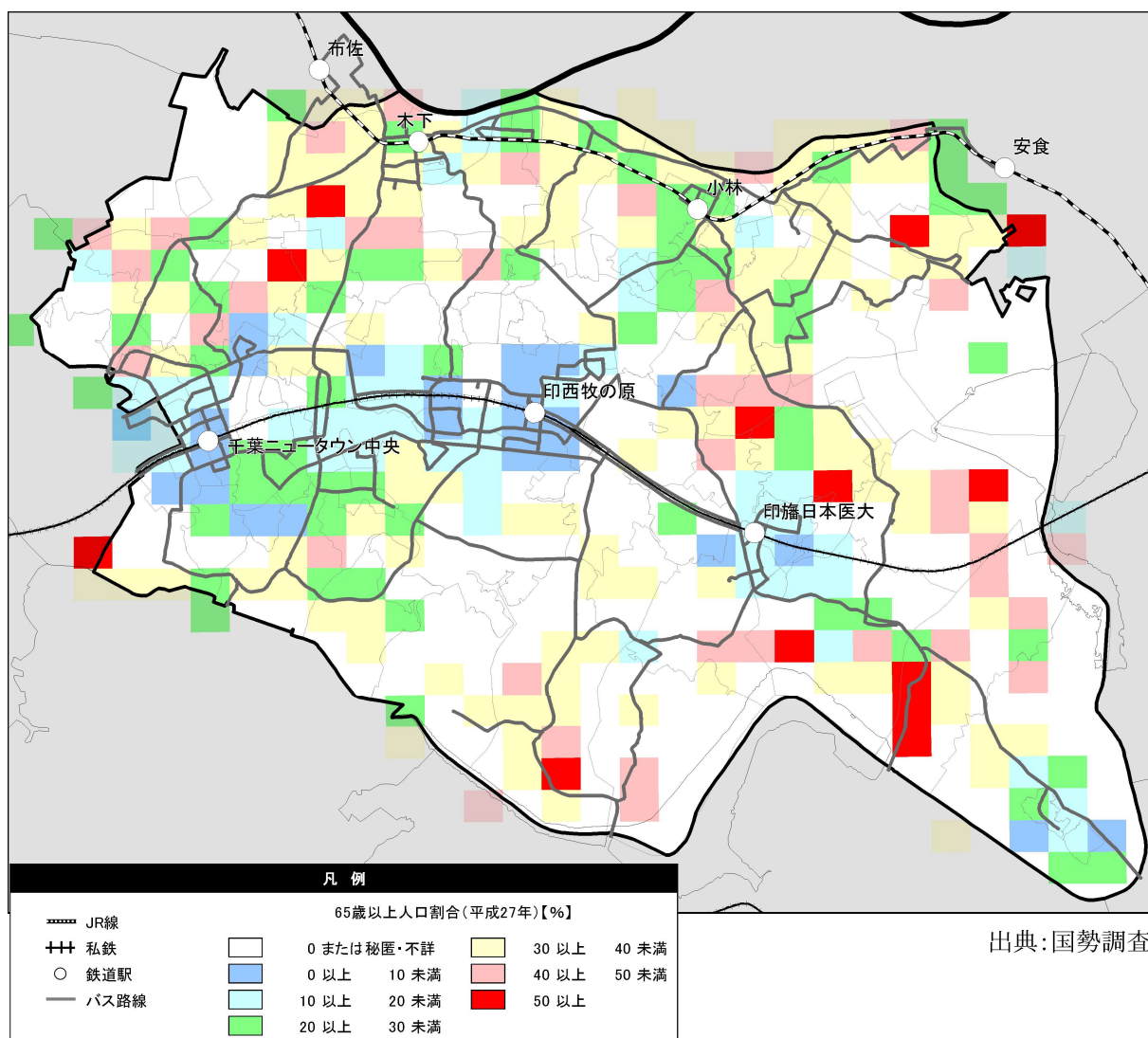


図13 メッシュ別65歳以上人口割合(平成27年)

4) メッシュ別人口【総人口の変化(平成17年から平成27年)】

- 平成17年(2005年)から平成27年(2015年)までの10年間の総人口の変化をみると、千葉ニュータウン地区のうち、特に駅に近いメッシュでの人口増加が大きいことがわかります。
- 一方、千葉ニュータウン地区のうち、高花地区、原山地区、内野地区、木刈地区などでは、100人以上減少しているメッシュが見られます。これらの地区は、千葉ニュータウンの入居開始時期が比較的早かった地区であり、高齢化が進んだことがその要因の一つとして考えられます。

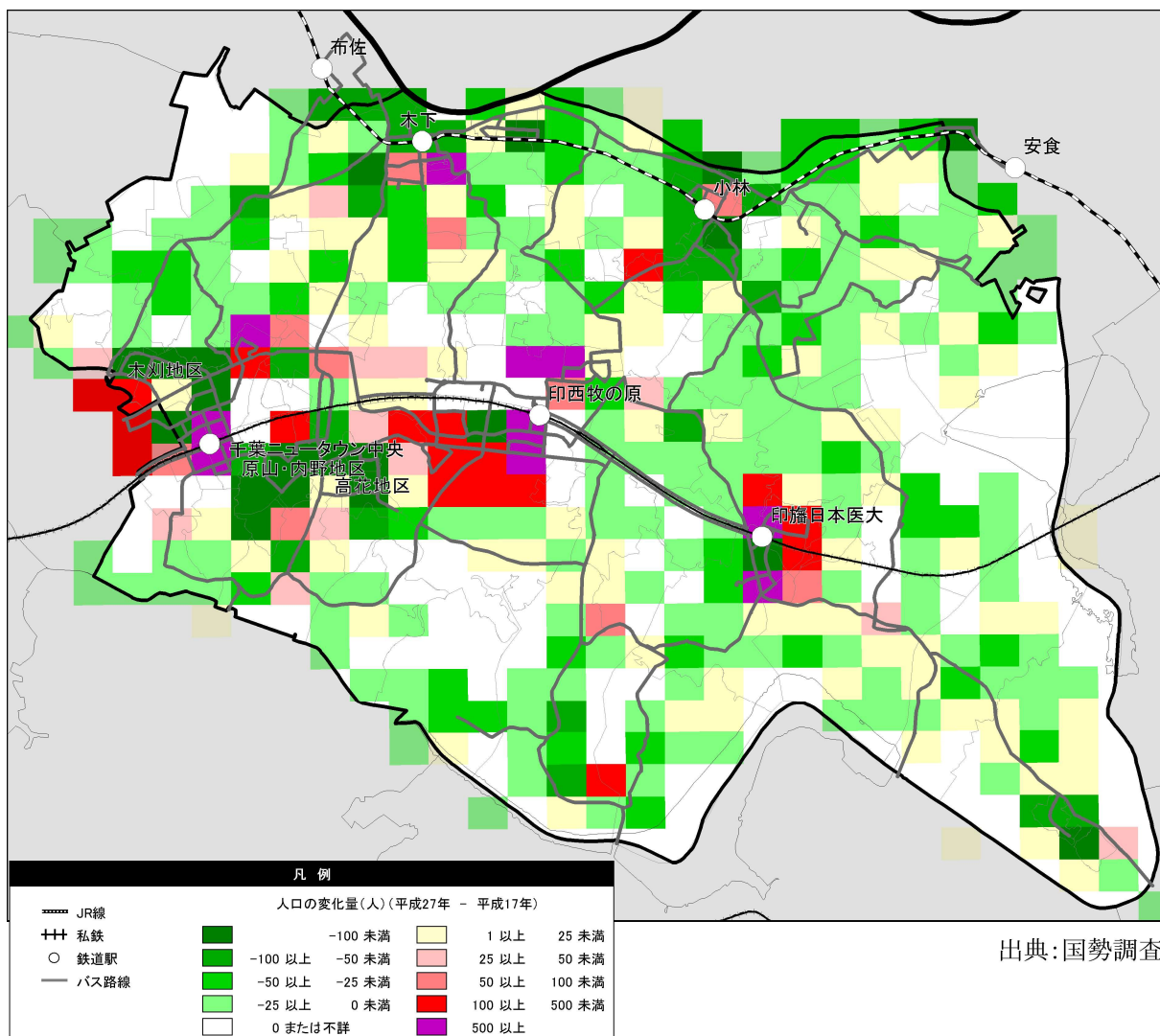
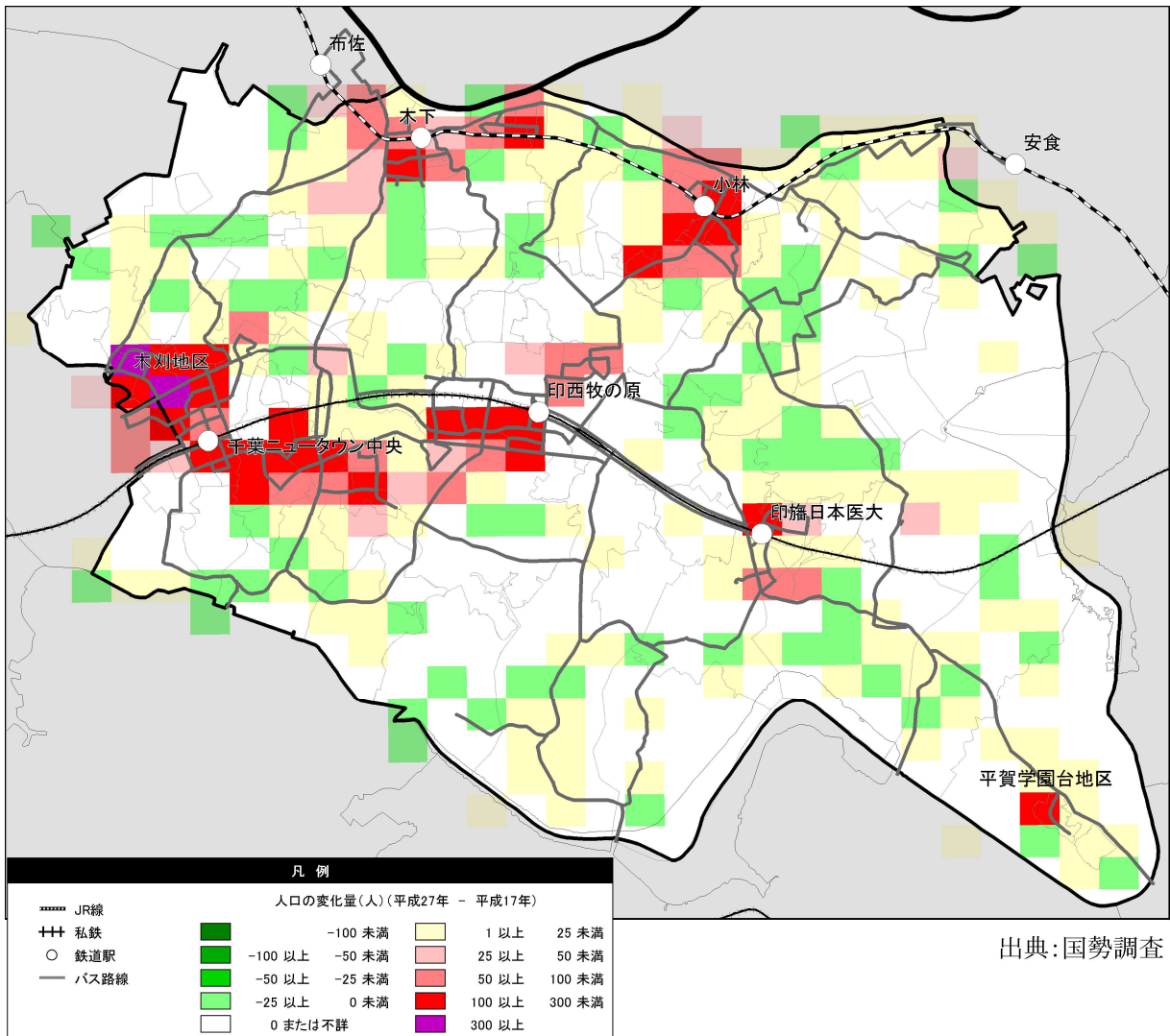


図14 メッシュ別人口の変化(総人口)(平成17年から平成27年)

5) メッシュ別人口【65歳以上人口の変化(平成17年から平成27年)】

- ・平成17年(2005年)から平成27年(2015年)までの10年間の65歳以上人口の変化をみると、千葉ニュータウン中央駅周辺で100人以上増加のメッシュが多く分布し、特に、木刈地区では300人以上増加のメッシュが見られます。そのほかの鉄道駅周辺や平賀学園台の一部地区でも100人以上増加のメッシュが見られます。
- ・一方、鉄道駅から離れた集落地域では25人未満の増加・減少のメッシュが多くなっています。



出典:国勢調査

図15 メッシュ別65歳以上人口の変化(平成17年から平成27年)

(6) 世帯数・一世帯あたり人員

- ・印西市の世帯数は一貫して増加傾向にあり、特に、平成 17 年(2005 年)から平成 22 年(2010 年)にかけて大きく増加しています。
- ・一方、一世帯あたり人員は年々減少しており、平成 12 年(2000 年)の 3.4 人/世帯に対し、平成 27 年(2015 年)では 2.8 人/世帯となっています。また、これを千葉県と比較すると、印西市は一世帯あたりの人員は多くなっています。
- ・高齢者(65 歳以上)がいる世帯数は増加しており、平成 27 年(2015 年)では全世帯の 37%を占めています。また、高齢者単独世帯、高齢者夫婦のみの世帯数も増加しています。
- ・高齢者のみの世帯の増加により、移動において同居家族による支援が期待できない世帯の増加の可能性が高まり、高齢者の外出移動における課題になることが考えられます。

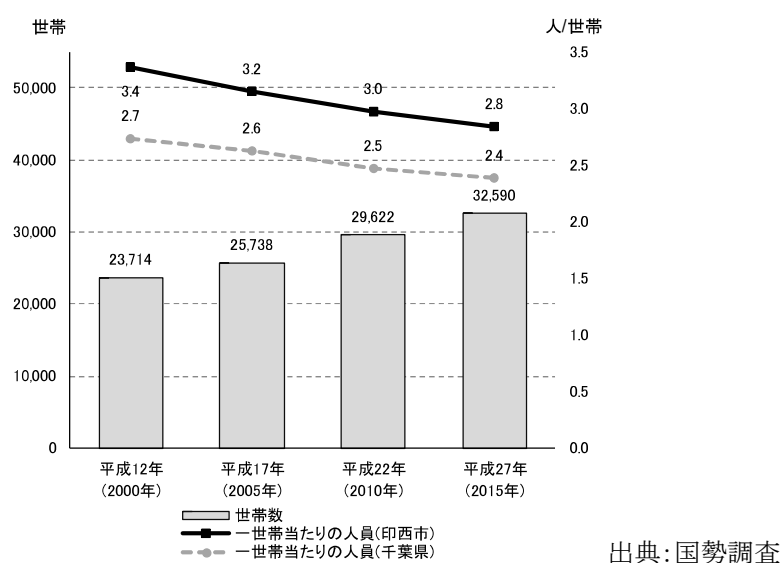


図 16 印西市の世帯数と一世帯あたり人員の推移

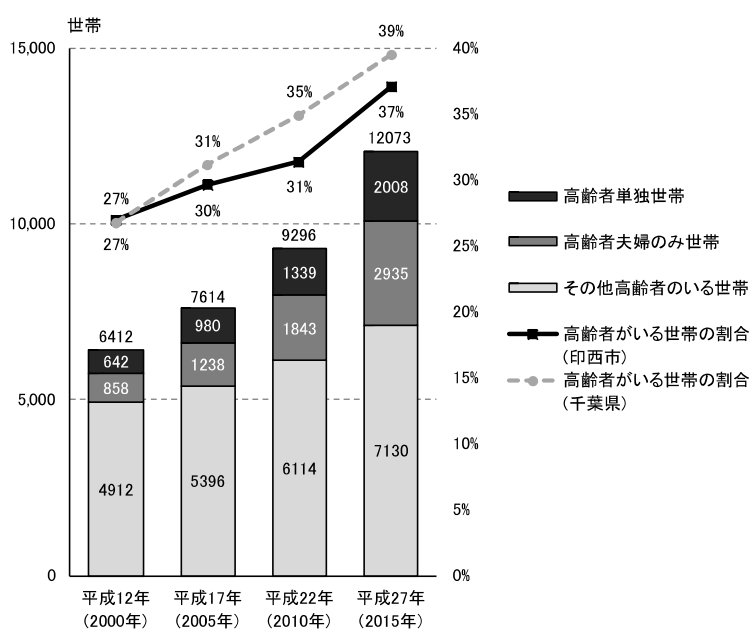


図 17 印西市における高齢者(65 歳以上)のいる世帯数の推移

1-2.2 生活圏等

(1) 通勤圏・通学圏

国勢調査を基に、印西市内の居住者の勤務先・通学先、印西市で勤務・通学する人の居住地を把握しました。

◆印西市内の居住者の勤務先・通学先

・印西市内での通勤・通学者が1万人以上と最も多くなっています。市外では成田市、佐倉市、八千代市、白井市、柏市といった隣接市のほか、鉄道利用が便利な船橋市、松戸市、東京都心部などが多くなっています。

◆印西市へ通勤・通学する人の居住地

・印西市内が1万人以上と最も多く、市外では、我孫子市、白井市、八千代市、佐倉市、船橋市など近隣地域からが多くなっています。

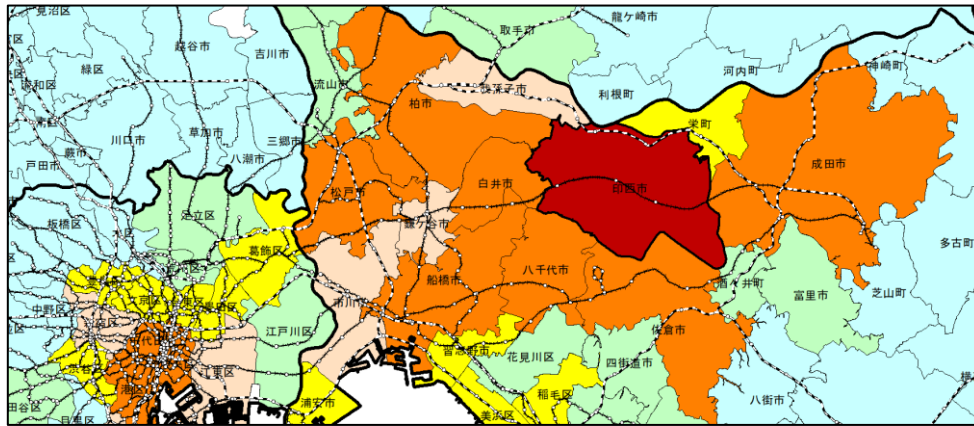
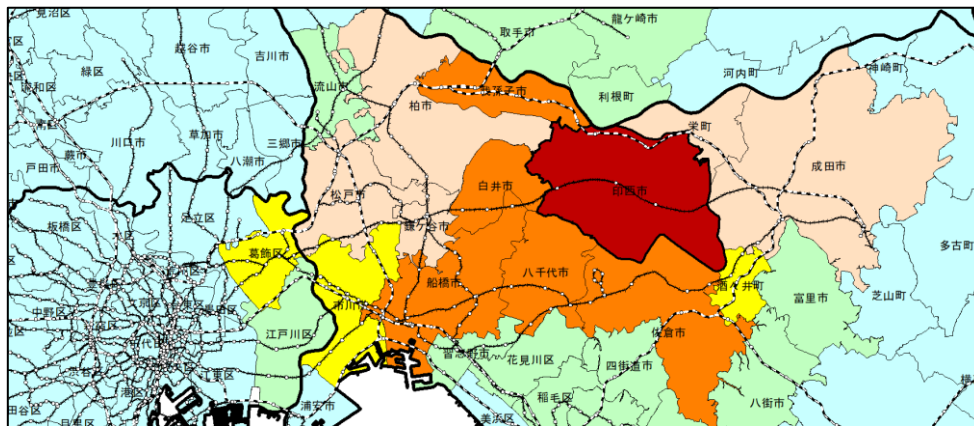


図 18 印西市内の居住者の勤務先・通学先(平成 27 年)



凡例

----- JR 線

+++ 私鉄

○ 鉄道駅

常住地・従業地による15歳以上就業者数・通学者数(平成27年)【人】

0	500 以上	1000 未満
1 以上	1000 以上	5000 未満
100 以上	5000 以上	10000 未満
250 以上	10000 以上	

出典:国勢調査

図 19 印西市へ通勤・通学する人の居住地(平成 27 年)

(2) 日常生活圏（私事目的における移動の起終点）

- ・私事目的での印西市からの移動先は、成田市、白井市、船橋市の一部地域が多く、そのほか、隣接地域や柏市、松戸市など鉄道利用が便利な地域となっています。
- ・私事目的での印西市への移動では、白井市、佐倉市、成田市、我孫子市の一部からが多く、隣接地域からの移動が見られます。
- ・私事目的では、「他地域から印西市へ」の移動が「印西市から他地域へ」の移動よりも広範囲でトリップ数が多く、買い物などの目的で他地域から千葉ニュータウン地区に立地する大型商業施設などへ来訪する人が多いことが考えられます。

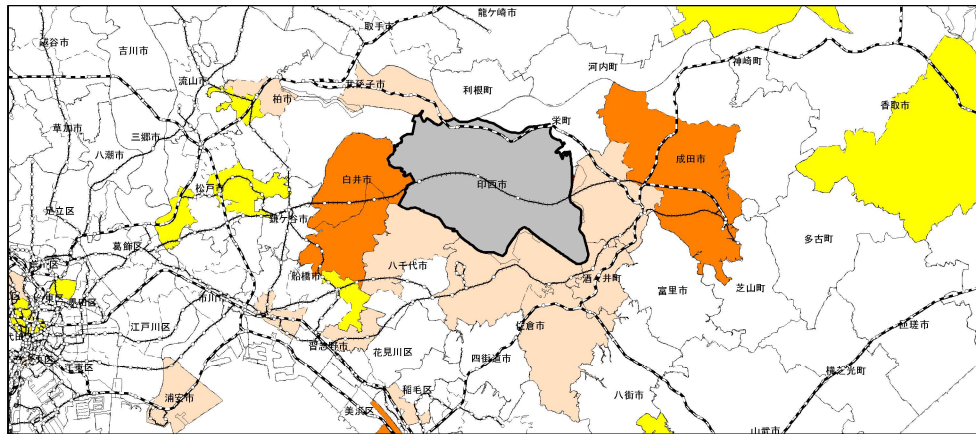
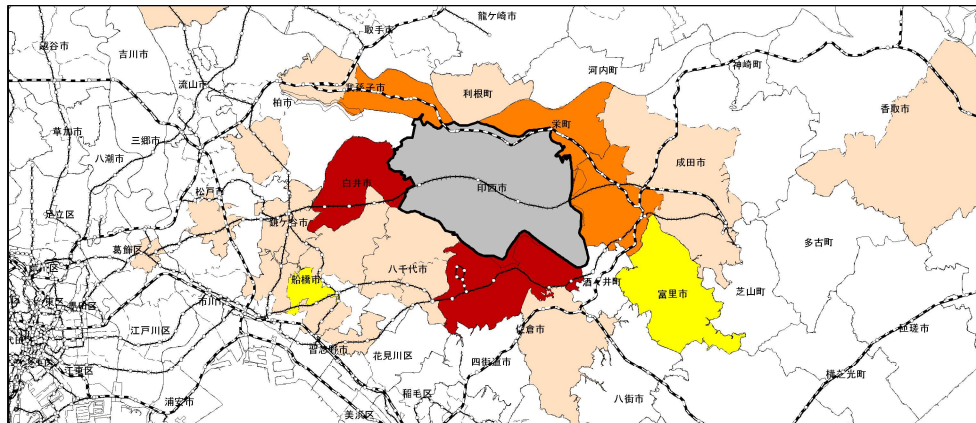


図 20 印西市から他地域への移動(自宅-私事目的)(平成 30 年)



凡 例

==== JR 線

+++ 私鉄

○ 鉄道駅

印西市発着の移動圏域(平成30年)【トリップ/日】

0

100 以上 500 未満

500 以上 1000 未満

1 以上 100 未満

1000 以上

※本図は、平成 30 年東京都市圏パーソントリップ調査の地域区分(計画基本ゾーン)を基に集計しているため、同一市でも着色が異なる箇所があります。

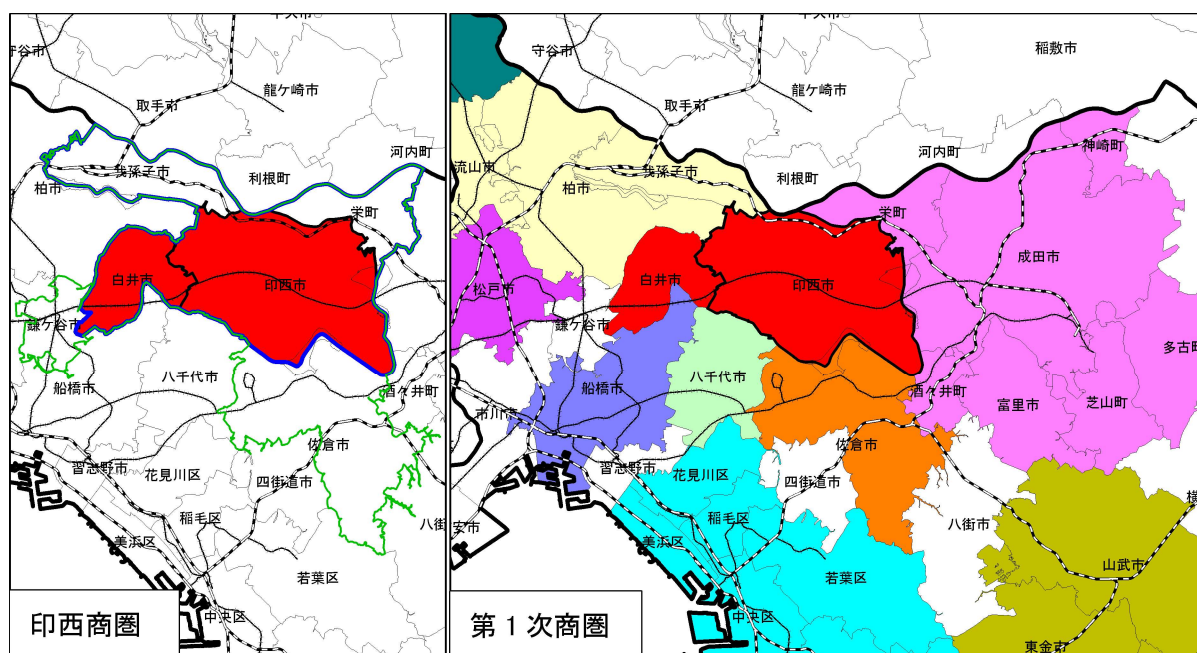
※「トリップ」とは、ある目的をもって起点から終点へ移動する際の単位であり、複数の交通手段を乗り継いでも、1つの目的で移動した場合、1トリップとします。

出典:平成 30 年東京都市圏パーソントリップ調査

図 21 他地域から印西市への移動(自宅-私事目的)(平成 30 年)

(3) 商圏

- ・「平成 30 年度消費者購買動向調査報告書」(千葉県)では、衣料品に対する消費者の購買地への吸引率(他市町村からみれば流出率)を基準に商圏を設定しており、「主要商圏」の一つとして印西商圏が設定されています。
- ・印西商圏においては、第1次商圏が印西市と白井市、第2次商圏は我孫子市、栄町、第3次商圏は鎌ヶ谷市、佐倉市となっています。印西市は千葉ニュータウン地区に多くの大規模商業施設が立地しているため主要商圏の一つとなっており、周辺地域から多くの買い物客が来訪しているものと考えられます。



凡例			
印西商圏		第1次商圏(衣料品の購買地への吸引率が30%以上)	
—+— JR線	■ 印西第1次商圏	■ 千葉商圏	■ 八千代商圏
+++ 私鉄	■ 印西第2次商圏	■ 成田商圏	■ 佐倉商圏
	■ 印西第3次商圏	■ 船橋商圏	■ 松戸商圏
		■ 柏商圏	■ 野田商圏
		■ 東金商圏	■ 第1次商圏なし・千葉県外

※「第1次商圏」とは、衣料品に対する消費者の購買地への吸引率(各市町村それぞれの消費者のうち、商圏の中心となる市町村で衣料品を購入する消費者の割合)が30%を超える市町村の範囲のことを指します。また、吸引率が10%以上30%未満の市町村を「第2次商圏」、5%以上10%未満の市町村を「第3次商圏」としています。(平成30年度消費者購買動向調査報告書(千葉県)より)

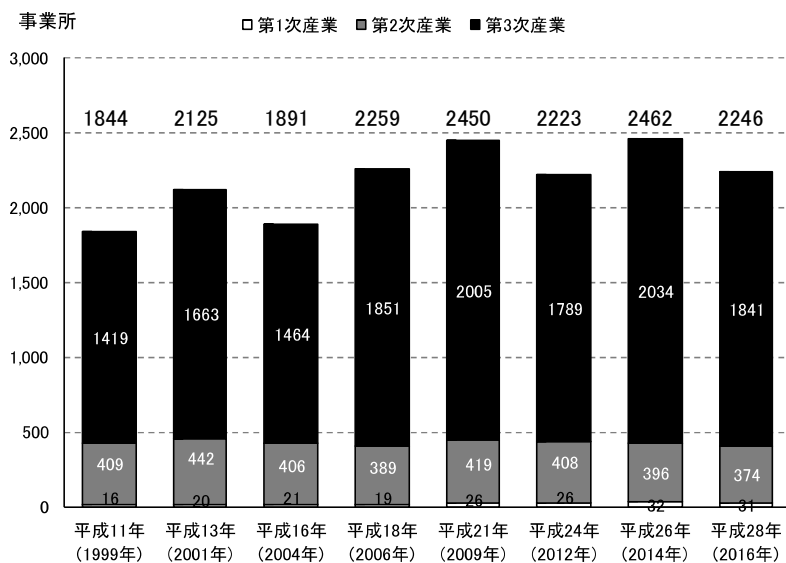
出典:平成30年度消費者購買動向調査報告書(千葉県)

図22 印西市および周辺市町村の第1次商圏

1-2.3 産業・経済

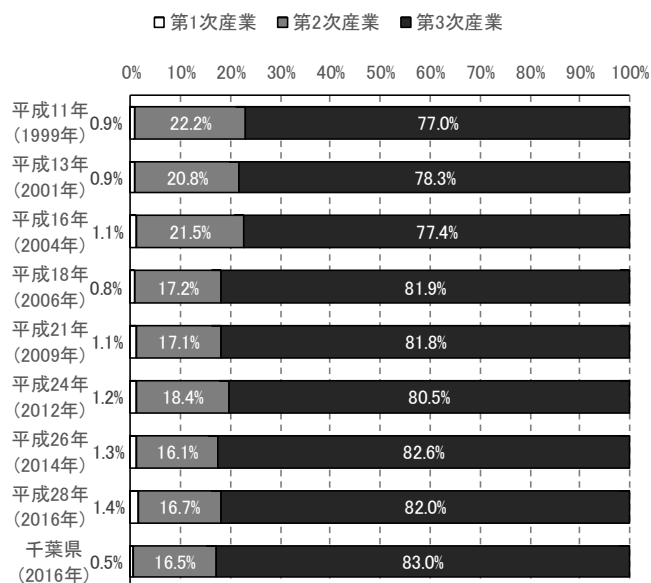
(1) 事業所数

- ・印西市の事業所数は、平成11年(1999年)の1,844から増減を繰り返し、平成28年(2016年)には2,246となりました。産業別では各年において第3次産業が多くなっています。
- ・なお、事業所数の割合では各年において第3次産業の割合が高く、平成28年(2016年)の産業別構成比は、第1次産業が1.4%、第2次産業16.7%、第3次産業82.0%で、千葉県と比べ、第1,2次産業の割合が若干高くなっています。



出典: 事業所・企業統計調査、経済センサス

図 23 印西市の産業別事業所数の推移

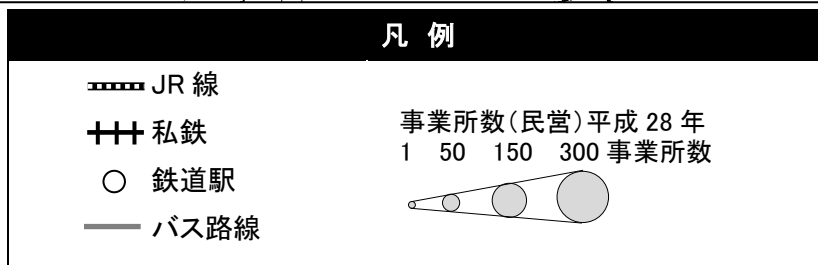


出典: 事業所・企業統計調査、経済センサス

図 24 印西市の産業別事業所数の割合

(2) 主な事業所の立地状況(民営の事業所)

・印西市の民営事業所の立地状況を町丁字別にみると、千葉ニュータウン中央駅周辺、印西牧の原駅、木下駅周辺に民営事業所が多く立地しています。

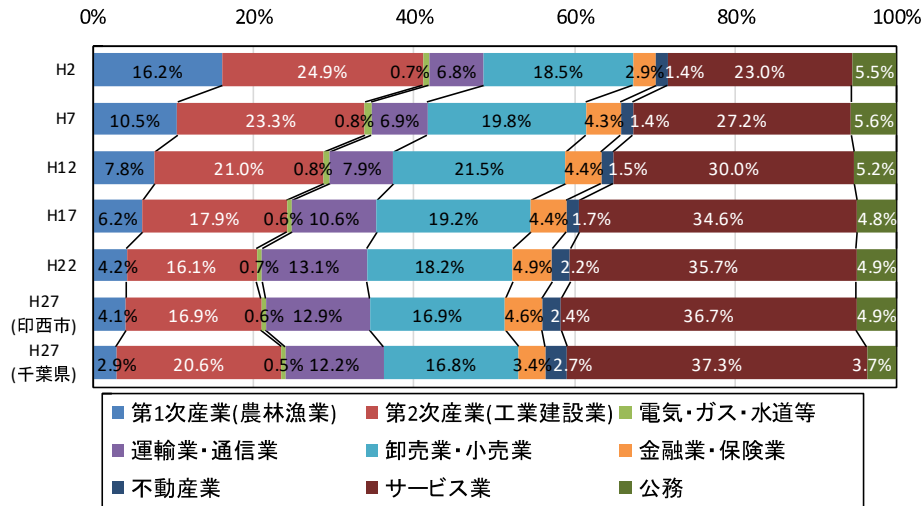


出典:平成28年経済センサス

図25 印西市の民営事業所立地状況(平成28年)

(3) 産業別就業人口（常住地就業人口）

- ・印西市の産業別就業人口の構成比は、第1,2次産業が縮小傾向にある一方、サービス業が年々拡大しています。平成27年(2015年)では、第1次産業が4.1%、第2次産業16.9%で、第3次産業のうちサービス業が36.7%と最も高くなっています。
- ・千葉県と比較すると、第1次産業、金融業・保険業、公務の割合が1ポイント以上高く、反面、第2次産業は1ポイント以上低くなっています。

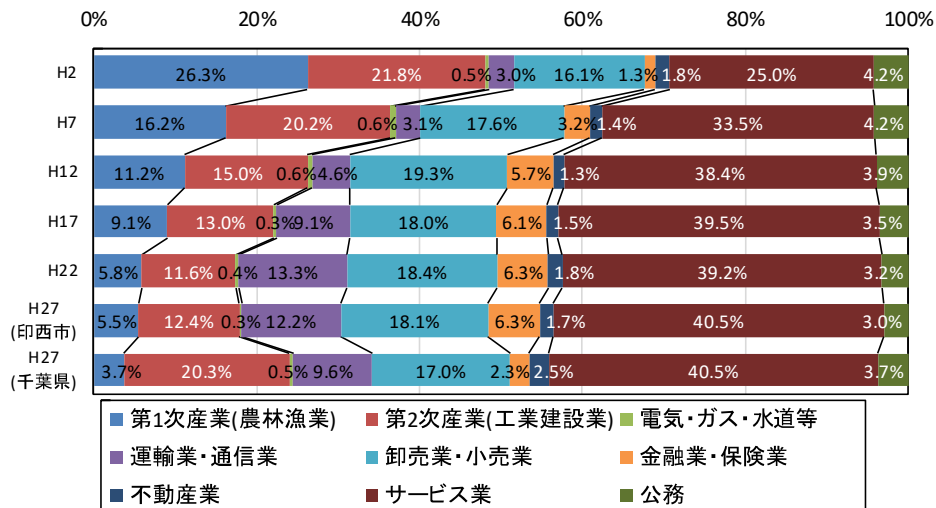


出典: 国勢調査

図 26 産業別就業人口の割合

(4) 産業別従業人口（従業地就業人口）

- ・印西市の産業別従業人口の構成比は、第1,2次産業が縮小する一方、サービス業が拡大する傾向がわかります。その結果、平成27年(2015年)では、第1次産業が5.5%、第2次産業12.4%で、第3次産業のうちサービス業が40.5%と最も高くなっています。
- ・千葉県と比較すると、第1次産業、運輸業・通信業、卸売業・小売業、金融業・保険業の割合が高くなっています。これは、千葉ニュータウン地区にこれらの企業や商業施設が多く立地していることが要因と考えられます。



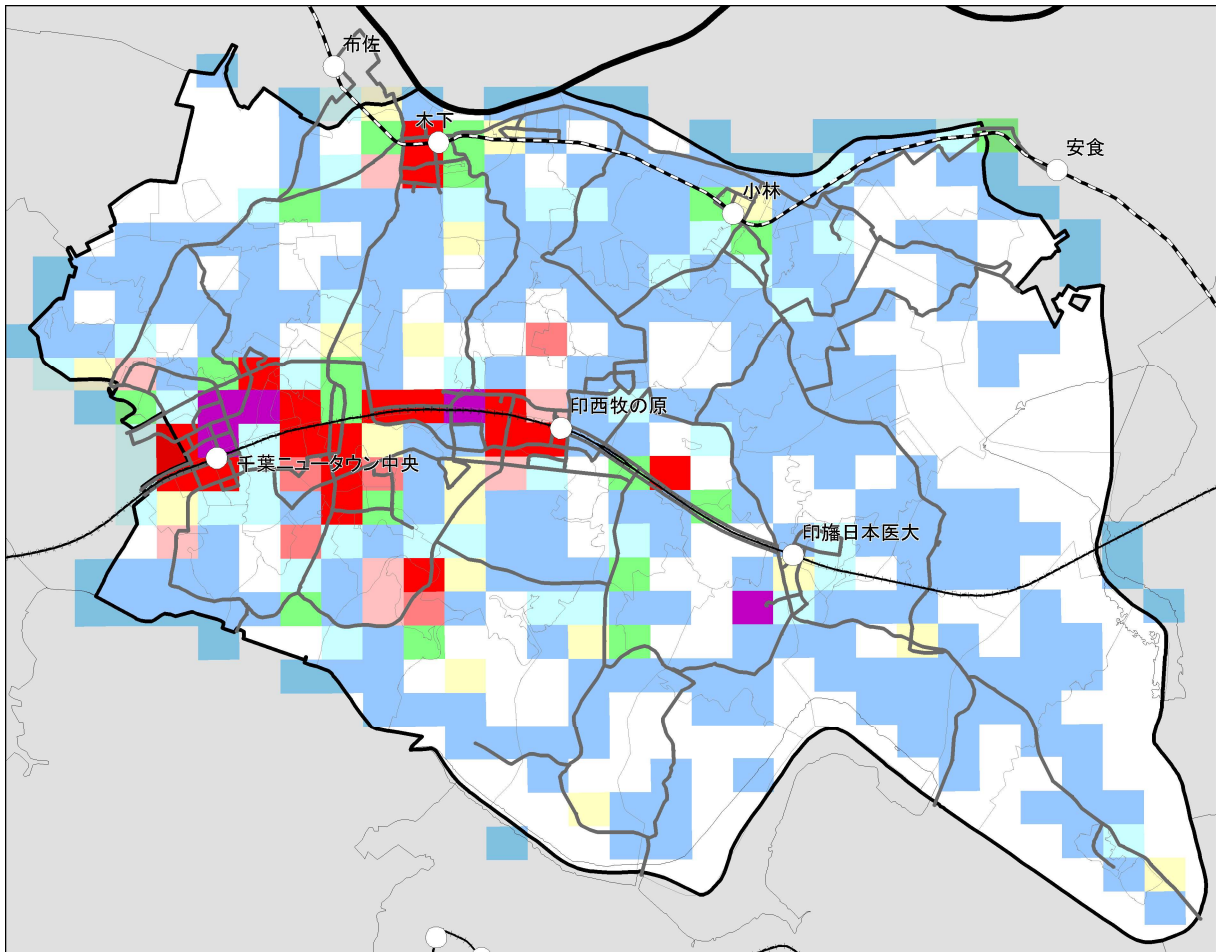
出典: 国勢調査

図 27 産業別従業人口の割合

(5) メッシュ別従業員人口

1) メッシュ別従業員人口

・千葉ニュータウン地区や木下駅周辺で従業員人口が多く、特に、千葉ニュータウン中央駅から印西牧の原駅の北総線（国道 464 号）沿線において、従業員人口の多いメッシュ（300 人以上）が見られます。これらのメッシュ内には、企業、大規模商業施設、病院、公共施設、工業団地の立地が見られます。



凡例		全従業員人口(平成28年)【人】			
—+—+— JR線	0 または 秘匿	100 以上 150 未満	250 以上 300 未満		
+++ 私鉄	1 以上 50 未満	150 以上 200 未満	300 以上 1000 未満		
○ 鉄道駅	50 以上 100 未満	200 以上 250 未満	1000 以上		
— バス路線					

※従業員人口とは、調査対象の事業所に所属して働いている全ての人の数を指します。（調査対象の事業所に所属していて、他の事業所へ出向または派遣されている人も含まれます。逆に、調査対象の事業所で働いていても、他の事業所に所属している場合は含まれません。）

出典：経済センサス

図 28 メッシュ別従業員人口(平成 28 年)

2) メッシュ別従業人口【従業人口の変化(平成18年から平成28年)】

- ・平成18年(2006年)から平成28年(2016年)までの従業人口の変化量をみると、千葉ニュータウン中央駅から印西牧の原駅の北総線(国道464号)沿線や、流通・工業系の企業が立地する松崎台地区での増加が特徴的です。
- ・一方、千葉ニュータウン地区でも減少数の多いメッシュがあるほか、木下駅周辺でも減少数の多いメッシュが増加しています。

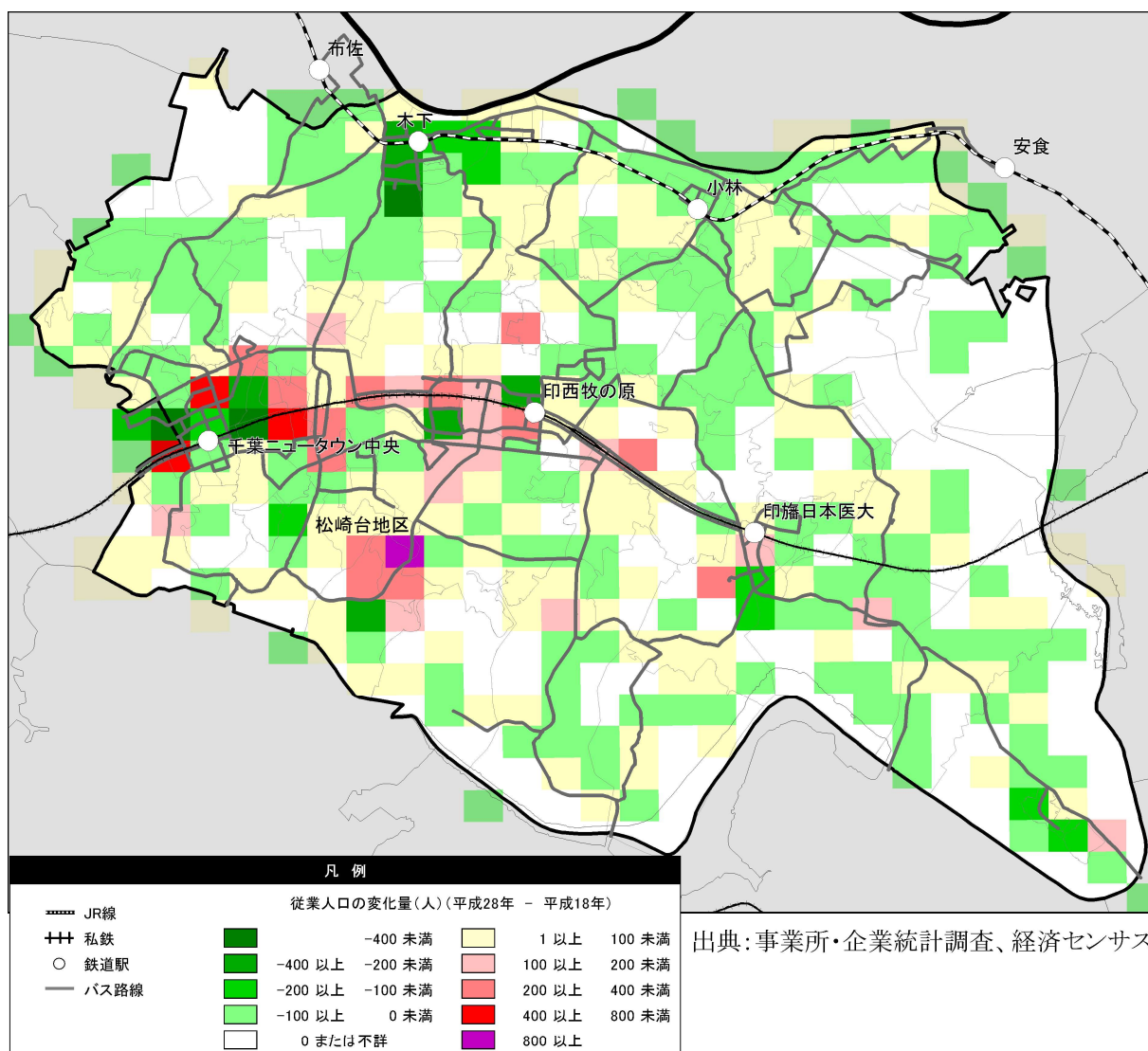
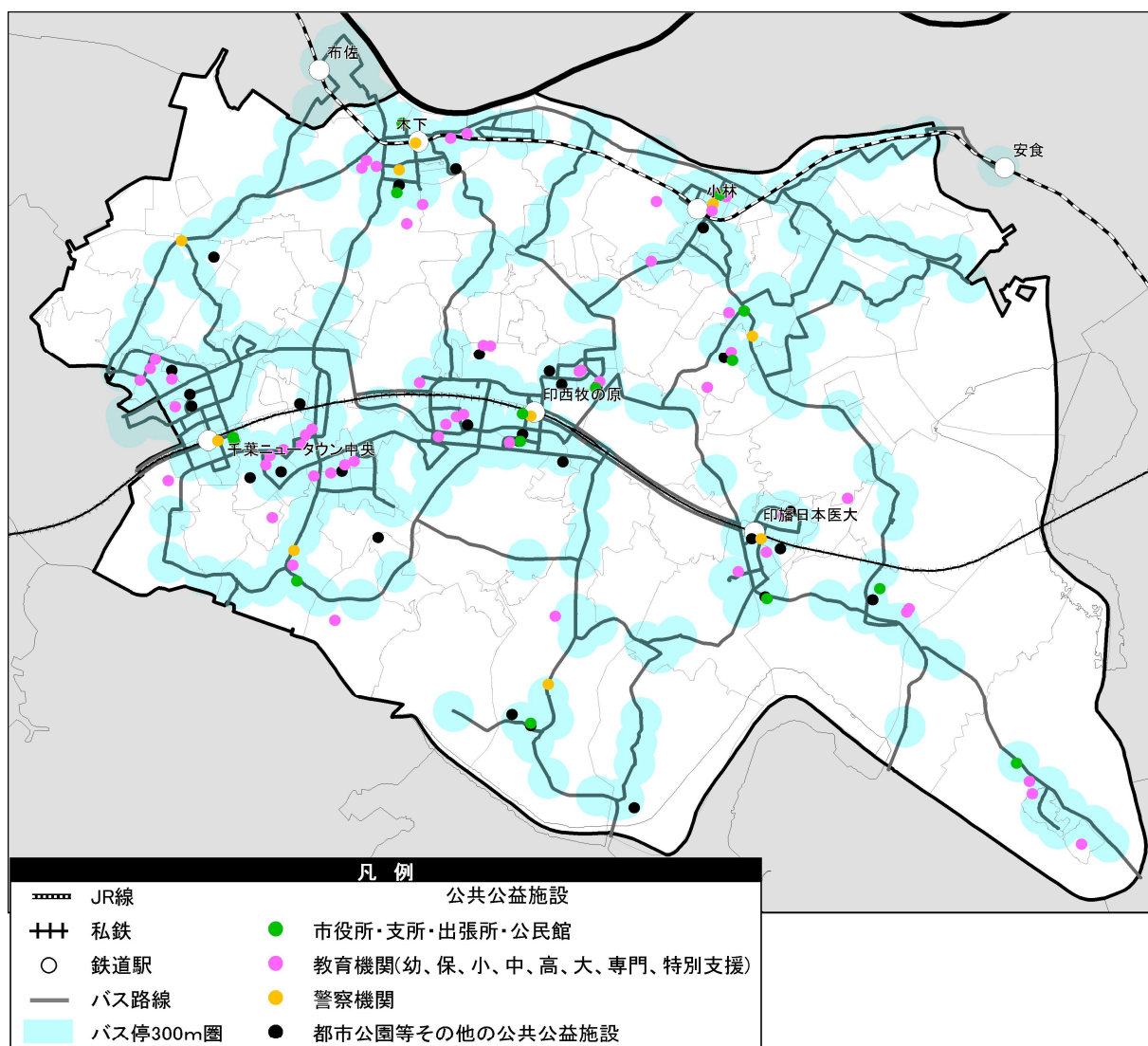


図29 メッシュ別従業人口の変化(平成18年から平成28年)

1-2.4 主要施設

(1) 公共公益施設

- ・公共公益施設は、印西市の各地域に点在していますが、特に人口が集積する地域には多く立地しています。
- ・また、施設の多くがバス停 300m 圏内または近傍に立地しており、概ね公共交通によりカバーされています。



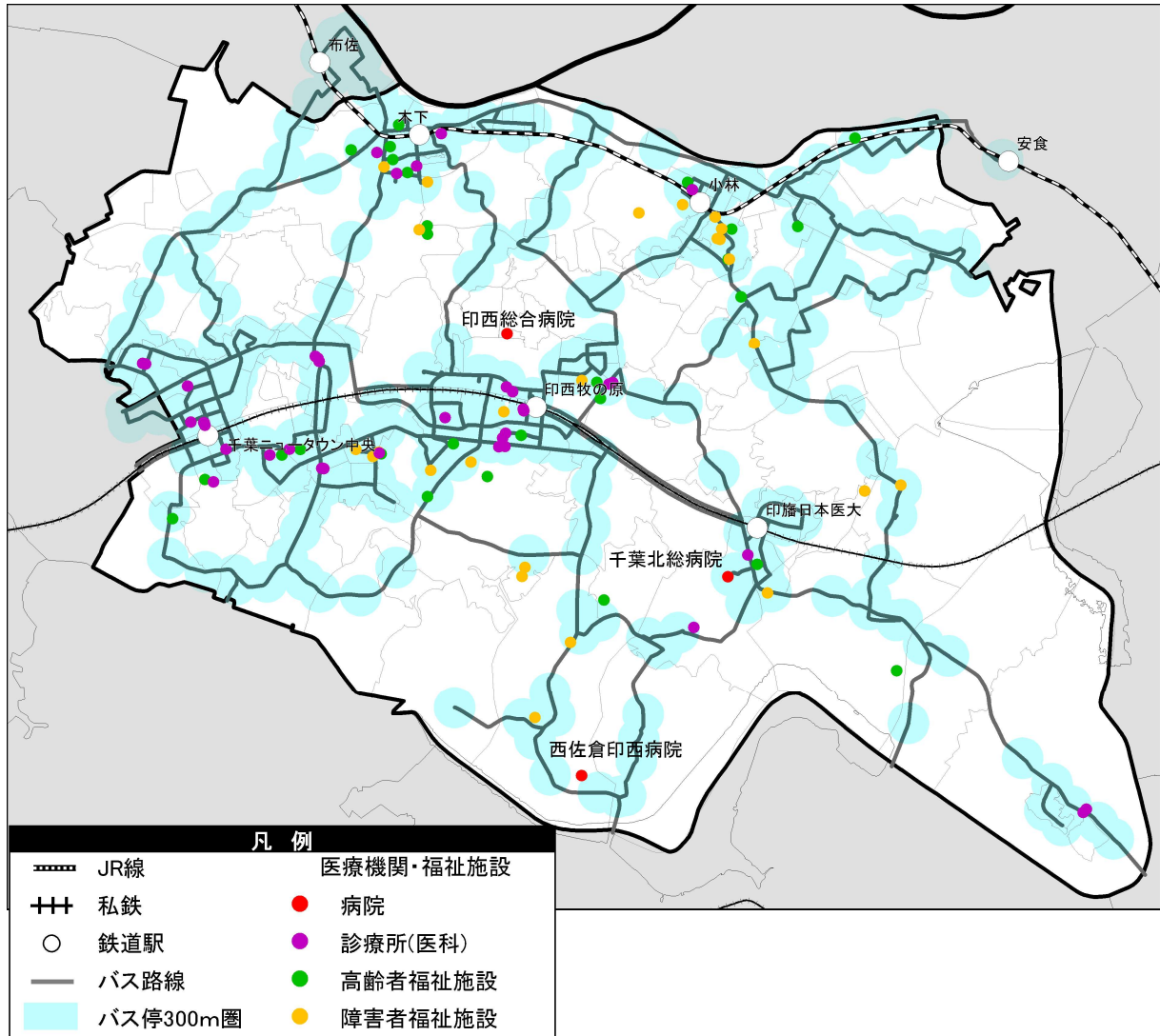
※都市公園とは、都市公園法に定められた、国または自治体が設置した公園のことを指します。

出典:国土数値情報、印西市 HP(令和元年10月現在)

図 30 公共公益施設の立地状況

(2) 医療機関・福祉施設

- ・医療機関は、千葉ニュータウン地区や木下駅周辺、小林駅周辺に多く立地しています。一方、福祉施設は鉄道駅や市街地から離れた地域にも立地が見られます。
- ・また、バス停 300m 圏内または近傍に立地している施設が多くなっていますが、印西総合病院は、鉄道駅、バス停からやや離れた場所に立地しています。



出典:国土数値情報、印西市 HP(令和元年 10 月現在)

図 31 医療機関・福祉施設の立地状況